2021年
1月
第6号

Medi-Way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.6　中国語担当　井上さん

◆なぜ医療通訳者になった？

私は中国人です。日本に来た頃は言葉が分からず、病院で困った経験があります。その後、市役所で中国残留邦人の自立相談員となり、皆さんからよく「病院受診が難しい」という相談を受けました。糖尿病の方からは「言葉が分からないから栄養指導を受けられない。」手術が必要な方なのに「説明が分からないので手術を断念した。」というお話を聞いてきた経験から、自分がお役に立てたらと思い、医療通訳の勉強を始めました。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

帝王切開の手術室で、赤ちゃんが目の前で誕生したことです。とても感動しました。その一方、時には深刻な場面もあります。医師とがん患者の母親との通訳をした時のことです。医師は今までの治療過程を説明し、全力を尽くしたが残念ながら根治が難しいと判断したことを伝え、今後は緩和ケアの専門病院に転院することを提案しました。若い患者さまで胸が痛む話でしたが、最後に母親は医師へ、丁寧な説明とお世話になったことを感謝されました。そして、私は母親と医師から「娘の置かれている状況がよくわかった」「長時間に及ぶ説明がスムーズに進んだ」とお礼の言葉をいただき、大切な役割を果たせたと実感しました。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

日々の勉強です。医療通訳は専門用語が多くて覚えるのは大変です。すぐに言葉が出てくるように、通訳学校からもらった医療用語のCDを繰り返し聞いたり、日本語⇔中国語のシャドウイング、自分用の医療用語集の作成などをしています。また、Medi-Wayの医療通訳勉強会で中国語通訳者の仲間たちと訳語について議論するのは、自分にとって医療通訳スキル向上のためによい勉強になっていると思います。

顧問医師紹介

私は現役の小児外科医で、生まれも育ちも大阪です。兵庫県立こども病院で20年間、茨城県立こども病院で9年間勤務し、現在は鹿児島大学に所属して、霧島市立医師会医療センターに勤務しています。趣味はちょっとおこがましいのですが、ジャズピアノで、少しは上達して北新地のライブの店で強引に弾かせてもらったこともありますが、最近その店は潰れました。

この5年ほどMedi-Wayの医療通訳者に医学知識を教えています。私の医療通訳との関わりについては次回のお楽しみとし、これまで「医療通訳入門」、「実践医療通訳」、「医療通訳4.0」の3冊を出版していることをとりあえずお伝えいたします。新型コロナ感染症の渦巻く中、医療通訳は画像付き遠隔通訳が主流となりつつあります。契約病院の皆様には、ご要望に合わせた通訳者教育に努めますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

鹿児島大学小児外科 客員教授
連（むらじ） 利博（としひろ）

今月のトピックス

「医療通訳勉強会」

2015年のMedi-Way発足から、当通訳センターでは勉強会を継続して行っています。基本的に月1回、今月で第60回を迎えます。顧問の医師以外にも、産婦人科や精神科等の先生を講師にお招きし、たっぷり2時間の座学と、各言語チームに分かれてのシナリオ演習が毎回のメニューです。テーマはさまざまです。以前には半年以上かけて「がん」の集中講座がありました。分子標的薬や陽子線治療など、医療は日進月歩ですから、毎回勉強会の内容をレビューするために各言語で作成する単語帳もかなりのボリュームになります。昨年は新型コロナウイルスについての特別講義も数回行いました。コロナの影響で勉強会も遠隔での開催となりましたが、違う言語の通訳者が一堂に会して、ケーススタディや情報交換、もちろん医療用語への理解を深めるための活発な質疑応答が毎回飛び交っています。
各言語に分かれてのシナリオ演習は、さらににぎやかです。ネイティブの通訳者やスペシャルアドバイザーから、外国語の訳出について時に厳しいダメ出しがあります。日本語ネイティブの通訳者からは、日本語の難しい表現、あるいは曖昧な言い回しについてかみ砕いた解説を行ったりして、実り多い勉強会になるようみんな頑張っています。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015　大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail:tic@towaeng.co.jp